

代、何人かの生徒がキャンパスを去って行く姿に触れ、とても胸の痛む思いがいたしました。

こうした状況を少しでも改善させようと、多くの諸先輩方が懸命に活動されてこられました。そうした努力は従来の与党の政治力学の中でいつも踏みにじられてきました。従来型の建設・土木事業には野方図に予算を投下する一方で、教育投資がいつも後回しにされてきたのです。例えば、日本における公共事業予算の対GDP比率は六・二％であるのに対し、高等教育予算の対GDP比率はわずかに〇・七％です。九対一というこの比率を変えなければなりません。それが本場の構造改革です。他の先進国では、どこも大体一対一となっているのが実状です。私も通産省において、知的立国日本創造のために我が青春の日々をささげてまいりましたが、二十一世紀への準備がほとんど遅れていくことへの焦りと、我々若手官僚の真摯な思いが通じない悔しさを毎日味わってまいりました。しかし、もはやこれ以上停滞を続けるわけには参りません。人づくりは今やまさに国民の総意であります。今こそこれまでの力学や概念に捕われることのない政策運営が必要であり、その皮切りとも言えるのが、徹底的な奨学金制度の充実です。

私のこうした訴えに、遠山大臣はじめ文部科学省幹部には理解を示していただきましたが、道のりはまだまだその緒についたばかりです。

国会の委員会での議論はここまでとなりましたが、政府の行政改革議論では、特殊法人である日本育英会の廃止が現実の話として持ち上がっています。単なるパフォーマンズの環として行政改革が進められ、その結果として教育政策が後退するようなことは言語道断です。

日本の未来を担う若者の育成に向けて、今後とも最大限の努力を続けて行きます。

■ 藤原和博参考人登場 「よのなか」科の挑戦

国会には、「参考人制度」というものがあります。それぞれの政策分野における有識者を各委員会にお招きし、そして政策や委員会質疑に反映しよう、という趣旨のものであります。それぞれの参考人は、各党の推薦により招致され、基本的にはその党の考え方を補完するような方を指名することが多いようです。

毎回テーマが決まっており、今国会では「学力低下問題」が取り上げられました。これまでは、各党とも大学教授やシンクタンク研究員をお呼びすることがほとんどでしたが、今回民主党推薦の参考人として私が陳述をお願いしたのは、私の尊敬する友人である藤原和博さんでした。

リクルート社のフェローとしてビジネスの最前線で活躍する藤原さんは、息子さんたちを通じて今の教育問題に深く関心を持たれるようになり、生きた社会を子供たちに伝えようと、東京都足立区立第十一中学において、「よのなか」科」という授業を行っています。藤原さんの主張と「よのなか」科」の理念・内容は次のとおりです。

これまでの学校教育は国語、英語、数学、理科、社会といった学力をつけるため、読み、書き、算盤、暗記といった力を鍛えることにのみ偏ってきました。しかし、価値観が多様化し、ボーダーレスな競争にさらされる情報社会を生き抜くには、これだけでは不十分です。そこで「よのなか」科」では、ロジック、コミュニケーション、シミュレーション、ロールプレイング、そしてプレゼンテーションを「二十一世紀の新五教科」と呼び、推理、洞察、交渉、説得といった力を鍛えようとしています。実際には、ハンバーガー店を町のどこに出店するか、というシミュレーションを通じて授業を進めます。「よのなか」科」を通じて、社会人が持つ、生きるチカラを子供たちに伝えていくことが狙いです。

実際に私、すずかんも足立十一中に講師として「よのなか」科」に参加しました。

が、子供たちのイキイキとした姿に、正直びっくり致しました。今回の参考人の陳述においても、各議員から藤原さんに質問が集中し、その関心の高さと試みの斬新さを、あらためて実感させられました。「よのなか」科」に関しては、藤原和博さんの近著「世界でいちばん受けたい授業」(小学館刊) 左は表紙の写真をご参照ください。



藤原氏のHP <http://www.yononaka.net/>

■ 「教育」にもっと陽をあてよう

イギリスのブレア首相が一九九五年の選挙において、「今のイギリスには大きな課題が3つ存在する。それは教育、教育、教育だ。」と言い続け、政権を獲得した話は有名です。一方、日本における教育の関心度はその重要性とは裏腹に、あまり高くはありません。

特殊法人改革の議論において、道路四公団に関してあれだけ大騒ぎするのと対照的に、日本育英会の廃止問題に関しては、議論すら表に出てきません。

それは、マスコミや政治家の責任であります。国会が、こうした状況だからこそ、私がこのたび国会に挑戦させていたのだいたわけです。現状を一刻も早く打破するため、そして「教育立国日本」創造のために、共に頑張りましょう！

鈴木寛、民主党でのお仕事 何をしているの？

● 代表室次長

会社で言えば、「社長室次長」のようなものです。鳩山代表を支える懐刀の一人として、日夜発生する諸々の出来事を的確に情勢把握し、代表が何をすべきか、進言します。また、党首討論や代表質問の原稿を実際に執筆するのは、代表室のメンバーである私達の役目です。

● 広報・宣伝委員会副委員長

民主党の広報・宣伝戦略を包括的かつ戦略的に考察・実行していくための組織として、出来上がったばかりの、かつ重責を担った、委員会です。党の組織戦略とも深く関わりますが、私は松沢成文委員長のもと、インターネット戦略を担当することになりました。

● 青年局長次長

青年局とは、若い世代と政治との間の掛け橋となる役目を担っている部局です。多くの学生団体や、高い志を持った全国各地の方々と意見を交換し合い、一人でも多くの若者に民主党の理念や政策を理解してもらおうと活動しています。もともと私のご縁の深い分野と言えます。浅尾慶一郎局長以下、色々な企画に知恵を絞っています。

この他にも、大学改革ワーキングチーム事務局長、知的財産制度改革推進議員連盟事務局長、コミュニケーションスクール・ワーキングチーム事務局次長として、それぞれの活動にあたりています。ホームページ等でこうした活動をお伝えして行きま。す。ぜひとも忌憚らないご意見を、よろしくお願ひ致します！